

安保法案

抗議活動 正念場へ

座り込みやパレード

市民団体「ストップ！ 安保法制、県民集会実行委員会」は、14日からJR福井駅東側の広場で「座り込み」を始める。18日まで毎日、意見表明やピラ配りなど様々な方法で安全保障関連法案の廃案を求めていく。

安倍政権が成立を目指している安保法案について実行委は①弁護士らが指摘するように憲法違反②国民の多くが反対している民主主義破壊——と批判。参議院で来週にも強行採決されそうな情勢下で断固廃案の意思を座り込みで訴える。

県庁前断食で訴え

座り込みは14、18日の午後3～6時。実行委に入っている各団体のメンバーが意見を発表するほか、弁護士・学者・宗教者・文化人らにもハンドマイクを握ってもらおう。期間中に強行採決があった場合は緊急抗議

県庁前で原発反対を連日訴えている石森修一郎さん(68)＝坂井市＝ら有志が10日午前6時、安全保障関連法案に抗議する「断食祈念行動」を同所で始めた。迫

活動へ切り替える。10日に県庁で会見した県労連の五十嵐正夫事務局長は「市民の意見発表も歓迎します。たくさん来てもらえるところうれしい」と飛び入り参加を呼びかけている。実行委は、福井弁護士会

有志による発表「安保法案は違憲」を受けて結成された。市民団体や労組、政党などで構成されている。18日正午からは福井市中央公園で「ストップ！ 安保法制、市中パレード」も開く予定。

り来る強行採決の日まで毎日、立ってマイクアピールをしたり座ってプラカードを掲げたりを続ける。

石森さんは初日、小雨にぬれながら「最後の最後まであきらめない。あきらめてはいけない」と話した。強行採決の事態も想定しており「今きちんと意思表示しなければ、いずれくる改憲の動きに立ち向かえない」とも。

一緒に座り込んだ窪田美代子さん(68)＝福井市＝は「福島の問題が未解決のうちの再稼働や、若者を殺し殺される立場に置く安保法案など安倍政権のやることはひたすら反対」と話した。

(下地毅)



「断食祈念行動」は連日午前6時に始まり、午前0時まで続けられる＝県庁前